

各業務：院内感染対策室

一概要一

感染対策に関する院内の組織は、院内感染対策委員会 (ICC)、院内感染対策チーム (ICT)、院内感染対策ワーキンググループ (WG) から成り立っている。院内感染対策室では、病院内で起こるさまざまな感染症から、患者やご家族・来院者、スタッフなど病院内のすべての人を守るために組織横断的に活動を行い、病院内の感染対策に努めている。感染症は、施設を超え地域全体に広がる可能性がある。近隣の医療機関とも連携しながら、地域ぐるみの感染対策を推進していく必要がある。当院は、泉州南部地域唯一の感染管理加算1取得施設であるため、感染管理加算の連携施設だけでなく、長期入院療養施設や介護に携わる職員などに向けても指導を行い泉州南部地域の感染対策の向上に努めている。

一実績一

2017年度 院内感染対策室の活動と担当者

グループ	細目	担当者
サーベイランス	BSI、SSI 針刺し、粘膜汚染	リンクナース 今里 山内
環境ラウンド ICTラウンド	感染の視点から各病棟の環境を調査	リンクナース ICTメンバー
医療材料	新規医療材料の検討	倭 深川 山内
	職員に対する教育活動 ・院内感染対策研修会 ・e-ラーニング研修 ・手洗い検査 ・手指消毒剤使用量調査 ・手指衛生直接観察 ・オーデットの実施 (末梢カテーテル、CVカテーテル、尿道カテーテル、個人防護具について)	リンクナース ICTメンバー
清掃関係	針落下の状況調査、清掃ミーティング、清掃ラウンド	リンクナース 山内
広報	The 院内感染対策 News 発行	山内 福岡 リンクナース
耐性菌、抗菌薬 (ICTラウンド)	抗生剤適正使用チェック 医師への指導 サーベイランス 感染症レポート作成	ICTメンバー

◆サーベイランス

【針刺し・粘膜汚染 件数】

	針刺し	粘膜汚染	合計
2017年度	33	20	53

【BSIサーベイランス】

期間	延べ入院患者数	延べ挿入日数	使用比	感染率
2017年4月 ～2018年3月	10,866	370	0.04	2.4

◆広報

The院内感染対策News (NO.1～NO.6) 発行

◆教育

当院の感染対策の現状 出席率：82%				
7/12(水)	7/26(水)	7/28(金)	8/1(火)	8/4(金)
8/7(月)	8/9(水)			
感染対策と Team STEPPS 出席率：74%				
11/24(金)	12/8(金)	12/11(月)	12/12(火)	12/13(水)
12/14(木)	12/15(金)			

◆感染管理加算

【相互査察】

監査施設・査察病院	実施日
監査施設：市立岸和田市民病院	5/16
査察病院：市立貝塚病院	3/8

【合同カンファレンス】

テーマ	開催日	担当病院
AMRアクションプランについて 病棟以外の感染管理について	6月21日	医療法人徳洲会 和泉市立病院
耐性菌および抗菌薬適正使用について	9月29日	当院
地域で取り組むAMR対策	11月15日	泉大津市立病院
肺炎患者の治療事例について	3月1日	当院

◆結核関係

- 1) 結核患者治療成績評価検討会 (第 1,2,3,4 四半期)
管内の塗抹陽性結核患者の治療成績の検討及び助言
6月11日(月)、9月11日(月)、12月11日(月)、3月12日(月)
14時30分～17時
場所：大阪府泉佐野保健所 2階
第1,3,4回 倭 正也, 第2回 山内真澄
- 2) 2017年度大阪府結核研修 (医療従事者向け)
8月25日 倭正也、山内真澄、深川敬子
9月12日 倭正也、山内真澄、深川敬子、福岡京子

◆予防接種・ワクチン関係

- 1) 1月9日(火)
2017年度第2回 阪神地区感染症懇話会
「わが国における予防接種・ワクチンの昨日、今日、明日」
岡部信彦氏講演
場所：大阪府新別館南館 8階大研修室
倭 正也、山内真澄、深川敬子、泉原里絵、宮本紅喜、福岡京子

◆HIV関係

- 1) 12月25日(月)
2017年度近畿ブロック都道府県・エイズ拠点病院等連絡会議
場所：国立病院機構大阪医療センター 緊急災害医療棟3階 講堂
福田圭祐
- 2) 11月8日(水)
2017年度大阪府感染症対策審議会 エイズ対策及び医療連携推進部会
エイズ医療委員会エイズ対策審議会医療体制推進部会
場所：大阪府立男女共同参画・青少年センター(ドーンセンター)4階 大会議室①
倭 正也
- 3) 12月27日(水)
HIV感染者地域医療体制構築事業にかかるエイズ診療拠点病院と大阪府医師会との連絡会
場所：大阪府医師会館 7階71会議室
倭 正也

一今年度の成果と反省点一

2015年5月の世界保健総会で、薬剤耐性 (AMR) に関するグローバル・アクション・プランが採択された。これを受け2016年4月5日に我が国として初めてのアクションプランが決定された。

アクションプランでは、①普及啓発・教育、②動向調査・監視、③感染予防・管理、④抗微生物剤の適正使用、⑤研究開発・創薬、⑥国際協力の6つの分野が示されている。新たな薬剤耐性菌が増加の一途を辿っており、耐性菌が患者と共に複数施設間を移動している現状があり、地域全体で感染対策を取り組

むが必要がある。地域における感染予防・管理等に一体的に取り組むため、当院と連携している感染管理加算2施設に出向き環境ラウンドを実施し、実際の現場を確認しながら感染対策についての指導を行った。当院主催の合同カンファレンスの際には、自施設の症例を元にカンファレンスを行い、症例を通して適切に抗菌薬が使用されているかの確認を行った。薬剤耐性菌を保菌した人が、医療施設から高齢者入所施設に転院するケースが増えている。介護を行う施設でも、薬剤耐性菌の対策を十分に考慮し、施設でアウトブレイクが発生しないよう、的確な感染予防対策に取り組むことが求められる。地域の病院だけでなく、高齢者施設に関わるケアマネージャーを対象に、耐性菌の保菌状況および施設内での感染対策について研修を行った。昨年度から引き続き、病棟でサージカルマスクが正しく着用できているかの確認を行ったが、息苦しい事を理由にマスクから鼻が出ている職員が多数認められた。それによる飛沫感染のリスクおよびマスク表面を触ることにより接触感染のリスクが高まると考えられる。今年度は、同病棟で3月3日～9日の間に看護師8名、病棟クラーク1名、看護助手1名、医師2名がインフルエンザを発症した。アウトブレイクと判断し病院長に報告を行い、全職員に、病棟職員間でインフルエンザが流行している事をメールで発信し注意喚起を行った。当該病棟には、特定症状の報告を就業前に行うことの徹底、環境整備の徹底、患者のカーテン隔離の徹底を指導した。正しくサージカルマスクが着用できているか、患者接触前後の手指衛生が行えているか直接観察と指導を行った。結果、入院患者に感染することなく終息することが出来た。感染対策における最も基本的な要件として、医療従事者による手洗いの励行がある。今年度は、手指衛生直接観察に加え、アルコール手指消毒剤の使用量調査を開始した。WHOが推奨しているアルコール使用量は「1患者当たり1日20ml」であるが、20mlに達している病棟はICU、NICUのみと極めて不良であった。昨年度に引き続き行った手指衛生直接観察の結果も、患者接触前29%（昨年度13%）、患者接触後16%（昨年度33%）と極めて不良であった。薬剤科では、今年度より薬剤科内の環境整備を実施するために、ポスター喚起や定時でのクリーンタイムを導入した。その結果、環境クロスによる身の回りの清拭は増加したが、業務状況により定時でのクリーンタイムの実施が難しく定着しなかった。要因としてICTメンバーによる薬剤科スタッフへの環境整備に対する教育不足が挙げられる。細菌検査室では、ICTと連携し海外帰国者からのMDRABを迅速に検出し、院内感染対策防止に貢献できた。また、現状の厚生労働省の判定基準では見過ごしてしまうカルパペネマーゼ産生腸内細菌にも留意し、特殊な検

査方法を組み合わせることで見逃し防止に努め、合計3件検出し、迅速な院内伝播防止に貢献できた。リハビリテーション科では、毎朝リハビリテーション室の清掃を行った。方法としてウェットクロスを用いてリハビリテーション科の備品を拭き上げる作業を行い、リハビリ室の清潔に努めた。それ以外では発熱、嘔吐等の報告の徹底を周知させ職員の感染に対する意識付けの向上を図ることができたと考える。反省点では感染担当者が休みの際に職員のインフルエンザ罹患の報告が遅れる事象が1件あった。その反省を踏まえ担当者休みの際の引き継ぎと報告の方法を再度職員全体に確認させた。それ以外では感染ラウンドの際、セラピストのマスクの不備が頻回に挙げられていたことが反省点として挙げられる。放射線技術科では、感染に対する基本的な知識の習得に重点を置いた。その方策として、院内の感染対策研修会への全員参加を最低限の目標とした。結果、業務的に厳しい面もあり当日参加ではなくDVD研修を含めて全員参加は達成された。個々の認識にとって有意義になったと考える。

— 来年度への抱負 —

感染対策の基本である手指衛生の強化を図るために手指衛生直接観察や手指消毒剤の使用量調査を行っているが、昨年度と同様に手指衛生の回数とタイミングに変化がなく、向上が認められなかった。WHO5つのタイミングをすべて向上させることは難しい、来年度は、5つのタイミングの患者接触前と手袋装着前の手指衛生の向上を目標にし、リンクナースやエキスパートナースも観察者となり現場で積極的に介入を行っていく。薬剤科では、ICTメンバーによるスタッフへの積極的な啓発活動を実施し、業務に支障のないクリーンタイム設定を計画し実施率の向上を目標とする。また、2018年度よりASTが発足される予定である。届出対象の8種類の特定抗菌薬使用状況把握など、抗菌薬の適正使用の推進をはかり耐性菌蔓延の防止に貢献していくことを目標とする。細菌検査室では、世界的にニュースになるような耐性菌が院内でも検出され、耐性菌の種類も増加が予想されるため、今後もこのような耐性菌を見逃すことが無いよう最新の検査方法にも注目し、日々の業務に取り組むたい。リハビリテーション科では、リハビリテーション室の清掃の継続とセラピストのマスクの徹底を実施していきたい。放射線技術科では、基礎知識に基づき個人が積極的な感染対策行動を提案できる風土を醸成する事が必要である。それには引き続き基礎教育が必要である。